



光ヶ丘女子高等学校吹奏楽部時代の高田さん。当時は、部活のほか、稲沢市までハープのレッスンを受けに行っていたという。全国大会へも出場した

[巻頭特集]

ハープ奏者 高田知子さん

クラシック音楽をもっと身近なものに

豊明市を拠点に活動しているクラシック音楽のプロ演奏家団体「豊明市音楽家協会」。クラシック音楽の普及と参加者相互の親睦を深めることを目的に、2015年8月1日に設立された。代表を務める高田知子さんはハープ奏者で、演奏活動と並行して愛知ハープ・アカデミーを主宰し、指導にもあたっている。



Profile

高田知子 [ハープ奏者]

岡崎市出身。4歳よりピアノを、16歳よりハープを始める。名古屋芸術大学音楽学部卒業。愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程修了。1児のママ。ハープ奏者、豊明市音楽家協会および愛知ハープ・アカデミーの代表として多忙な日々を送るなか、昨年新たに英語リミックサークル「ミミフル」を立ち上げた。音楽で地域を盛り上げたいと奮闘中

高田知子オフィシャルサイト

<http://tomokomusicoffice.web.fc2.com>

昨年2月18日開催の「0歳児からのワンコインクラシックコンサートvol.2」の様子。舞台上に多数の子どもたちが上がり、協会が用意したマラカスを手に、プロの演奏家たちといっしょに曲を奏でた



今年1月21日、市内西川町善波の西川会館で開かれた「ソプラノ・クラリネット・ハープ・音楽療法によるWinterコンサート」には、豊明市音楽家協会の5人が出演。会員の杉浦悠子さん(ソプラノ歌手・音楽療法士)の歌声に合わせて子どもたちが行進すると、会場からは手拍子が起こった



高校時代にハープと出会い現在はプロ奏者として活躍

荘厳で繊細な音色と優美な形から「楽器の女王」と呼ばれるハープ。多くの人がハープと聞いて思い浮かべるのはグランドハープで、高さは約2メートル、重さは40キロにもなる大型の楽器である。ソロの演奏はもちろんのこと、フルート、バイオリンとの共演やオーケストラに参加するなど、活躍の場は広い。

弦の本数は47本。ドレミファソラシドと並んでおり、足下にある7本のペダルで半音調整できる。ドは赤い弦、ファは青い弦になっている。それらの弦を弓や爪でなく、小指を除いた左右各4本の指で直接弾く。47本の弦を操り、紡がれていく音を「まるで天使が空から舞い降りてくるよう」と高田知子さんは形容する。ハープとの出会いは、岡崎市の光ヶ丘女子高等学校吹奏楽部だった。同校は吹奏楽の全国大会常連校。バカッションを担当していたが、高校2年生のとき、ハープの担い手がいなくなり、高田さんの受け持ちに。ピ

アノは4歳から始めていたものの、ハープはまったくの素人。当初は指先に血豆や水ぶくれができたという。次第にハープに魅了されていった高田さんは、ハープ専攻で大学へ進学。さらに技術を磨くため、愛知県立芸術大学大学院へ進んだ。同大の優秀学生賞をはじめ、数多くのコンクール受賞歴があり、第25回日本ハープコンクールでは、プロフェッショナル部門で入賞した。プロのハープ奏者として、さまざまなコンサート、イベントでの演奏を重ね、2016年には名古屋フィルハーモニー交響楽団との協演を果たす。

豊明の音楽文化の向上と普及を目指して協会を設立

結婚を機に豊明市に新居を構え、活動拠点を岡崎市から移した。その当時、豊明にはプロの音楽家のための組織がなかった。高田さんは近所に住んでいた音楽仲間の中村真由さん(ソプラノ歌手)と2人で「豊明市音楽家協会」を立ち上げた。現在の会員数は9人。ハープ、フルート、ピアノ、クラリネットの演奏家のほか、ソプラノ、テノールの声楽家が名を連ねる。普段は個々の活動が多く、協会主催のコンサートには会員がそろい、地域の人々に向けて国内トップレベルの演奏を披露する。協会設立時は、会員相互の親睦を深めることを主目的に掲げていた。そんななか、子育て中の会員がいたり、高田さん自身もママになったりして、子どもの頃からクラシック音楽に親しめる環境づくりにも乗り出す。



自宅では、ベニヤ板を張った手づくりの防音室で、毎日5、6時間練習をしている。多い時は1週間に1本以上のベースで弦が切れるという

そのひとつが、定期的に開かれている「0歳児からのワンコインクラシックコンサート」。多くの演奏会では未就学の子どもの入場を断っているが、同コンサートはその名の通り、赤ちゃんといっしょに親子でクラシック音楽を楽しめる。プログラムも、小学校の音楽の教科書に載っている曲を中心に組み、どの世代も親しみやすい内容になっている。

「クラシック音楽という堅苦しいという印象の方も多いですが、長い歴史を持つことは、それだけ多くの人たちに育まれ、愛されてきた音楽とも言えます。ぜひ会場に足を運んで、クラシックの魅力に触れてほしいですね」と高田さんは話す。

来場者も気軽に楽しめる参加型のコンサートを開催

これまで豊明市音楽家協会が開いてきた演奏会は「0歳児からのワンコインクラシックコンサート」「ひまわりコンサート」「ソプラノ・クラリネット・ハープ・音楽療法によるWinterコンサート」がある。どのコンサートも、未就学の子どもたちの入場制限などはなく、会場には赤ちゃんを抱っこして演奏を楽しむママ

会場に足を運んで、多くの人に育まれ愛されてきたクラシック音楽の魅力に触れてほしいですね。

たちの姿が多く見られた。

観客が演奏体験をできるよう、工夫を凝らしているのも特徴だ。クラシックのコンサートでは、一方的に曲を聴かせる形態が普通で、演奏者と聴衆の間の距離は遠い。そこもクラシック音楽を近寄りがたくしている要因として、高田さんたちは観客にも参加してもらい、その垣根を取り払おうと企画した。

たとえば楽器や音の鳴るものを持つてくるよう呼びかけ、いっしょに曲を演奏したり、足で踏むと音が出るミュージックプレートや舞台上に設置し、その上を来場した子どもたちが曲に合わせて行進したりと、会場一体となって楽しめるコンサートを目指してきた。また、舞台のスクリーンに絵本を映し出し、絵と音楽による読み聞かせも試みている。

4月には第3回となる「0歳児からのワンコインクラシックコンサート」を開催。「前回ほど多くの方に来ていただき、チケットも完売。良かった、楽しかった」という声も多数いただきました。そこでこのたびは会場を大ホールに移して、よりパワーアップした内容でお届けしますので、ご期待ください

0歳児からのワンコインクラシックコンサート vol.3

4月22日[日] 14:00開演(13:30開場)

場所 / 豊明市文化会館大ホール
入場料 / 1席につき500円
申し込み・問い合わせ / 豊明市音楽家協会のウェブサイト参照
<http://www.toyoake-music.sunlight4u.com/main/>

※ロビーでハープの無料体験ができるほか、ドレスやタキシードなどの衣装(貸し出し無料)を着ての撮影コーナーを設ける。授乳室も用意

